

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>市に独自の最終処分場を持たないため、大阪湾広域臨海環境整備センター（大阪湾フェニックス）の処分場は重要な施設である。</p> <p>平成24年3月に同基本計画が再度変更され、事業計画の終了年度が平成39年度まで延長された。このため、終了年度までは計画どおり事業を進めることが妥当と考える。</p>
「見直し」「改善」案	<p>市単独で事業を進めるよりも、大阪湾フェニックス圏域(168市町村)で大きな最終処分場を持つほうが安価でできるため、見直しは難しい。</p>